

しが 県博協だより

第34号

滋賀県博物館協議会

『しが県博協だより第34号』は、設立40周年記念事業として行われたガイドマップの制作および、昨年度に開催した情報交換会「展示・収蔵環境における有害物質対策について」の報告を掲載いたします。

滋賀県博物館協議会 設立40周年記念事業について

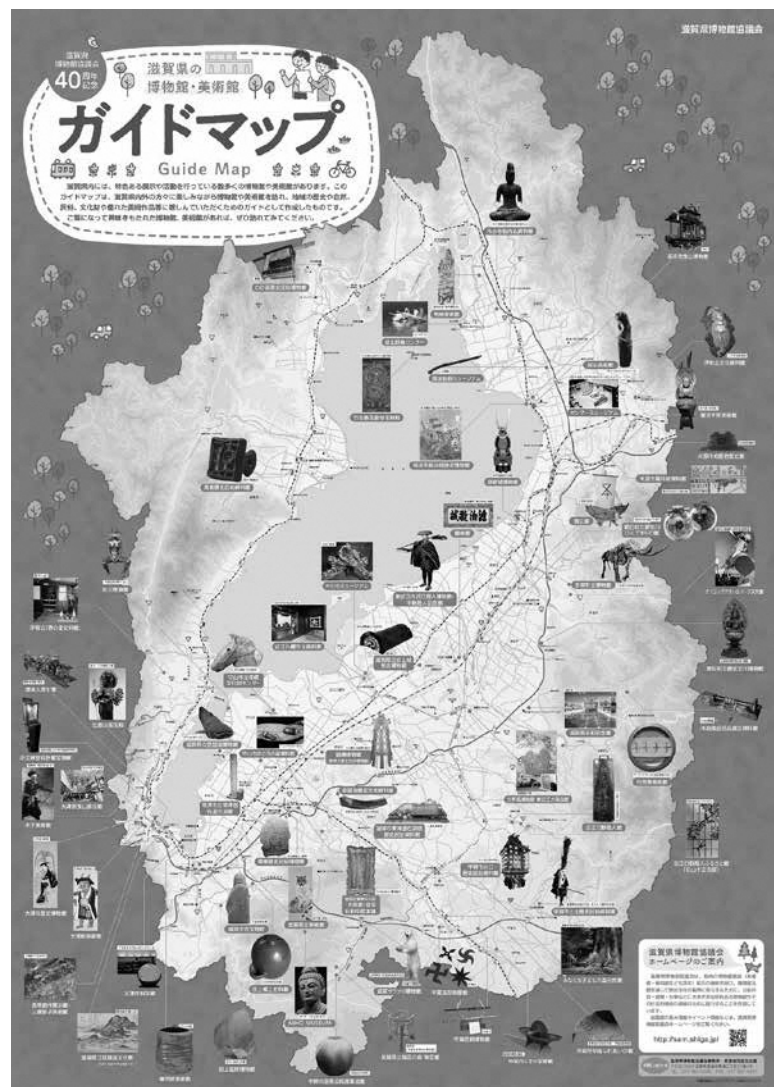
令和4年(2022)に当協議会が設立40周年を迎え、コロナ禍でもできる記念事業を検討して参りました。

ひとつは35周年で制作した当協議会の加盟館を紹介したポスターが、滋賀県地図に代表作品や資料を記載し評判を呼んだので、40周年では当時のデータを更新したニューバージョンを制作しました。各加盟館には2部ずつ送付し、県内の主要な施設や学校等に広く送付して掲示をお願いします。

もうひとつは、滋賀県の博物館や大学等で活躍して来られた美術・歴史関係の重鎮の方々の鼎談を予定しています。これをDVD化して加盟館に配布します。さらにこれらを徐々に公開して行く予定です。

今後とも皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

(記念事業委員・MIHO MUSEUM 東容子)



滋賀県の博物館・美術館ガイドマップ

ポスターは次のURLよりダウンロードすることができます。

<http://sam.shiga.jp/images/35th-guidemap.pdf>

令和3年度 研修事業実施報告

展第1回情報交換会

「展示・収蔵環境における有害物質対策について」

日時 2021年（令和3年）11月2日（火）

13:30～17:00

会場 安土城考古博物館

参加者 28名（20館、講師・委員・非加盟館含む）

趣旨

新型コロナウイルスとの付き合い方に迷う日々が続く中、令和3年度も8月末から9月にかけて緊急事態宣言が発令される厳しい状況となったこともあり、今回は講演を東京からリモートでお願いすることとした。感染の状況によっては滋賀の参加者も完全にリモートとする選択肢も一時検討したが、感染がある程度収まっていたため、滋賀では安土城考古博物館のセミナールームに集まって実施することができた。令和2年度の研修はコロナ禍のため実施できなかったもので、2年ぶりの開催となった。研修の概要を以下に報告するが、この問題の背景については「県博協だより第33号」も参照頂きたい。



研修会風景

趣旨説明 研修委員 高木叙子

博物館で資料や作品を展示する際には、従来から、温度、湿度、照度の管理が行われてきた。しかし近年になって、合板などから発生する有機酸やア

ンモニアなど、展示資料にとって悪影響を及ぼす化学物質がエアタイトケースの中に籠もってしまう、という問題が知られるようになってきた。

これら化学物質は、検査をしないと存在がわからないので、問題に気づいていない館も多いようだ。また、自館でこのような問題があることが分かった場合、他館から資料の借用に支障をきたす懸念もあって、自分たちだけで悩んでしまう場合も多い。

しかし、これらはどの館にも起こりうる、現場の学芸員にとって喫緊の課題だ。風評被害に配慮しつつも、情報共有を行うことが求められる。

そこで今回は、吉田直人先生から基調講演をいただく。以前から保存環境の分野で広く指導下さっている方で、展示収蔵空間の空気環境問題にも精通しておられる。

《基調講演》

独立行政法人国立文化財機構文化財活用センター 保存環境室長 吉田直人先生

文化財活用センターでは、資料の保存に関する相談を受けている。従来は、温度や湿度の管理に関する相談が多かった。しかし近年は、展示ケース内の有機酸やアンモニアに関する相談が急増している。

有機酸は、酢酸や蟻酸などの総称だが、今回の講演ではほとんどが酢酸とあってよい。資料に対しては、金属の腐食や鉛丹顔料の変色などの影響がある。管理目標濃度は170ppb（430 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ）以下とされ、それを上回ると資料への影響がみられる。木材や合板から長期間にわたって発生する。一方アンモニアは、油絵の油の変色や緑青の青変などの原因となり、30ppb（22 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ）以下が管理目標となる。発生源は、内装にも使われるクロスが考えられる。博物館や美術館において、これら化学物質が注目されるようになったのは、比較的最近のことである。

しかし合板やクロスなど、博物館で長年使われてきた建材や内装材が発生源であるので、この問題は何十年も前から存在したのだろう。最近になって、後述する簡易な検査方法を現場の学芸員が実施できるようになってきたことで、このような問題があることが顕在化してきている。

これら化学物質の調査には、精密な定量分析よりも、モニタリングを長期間継続することが重要だ。

定点観測を、へこたれずに持続することで、定期的な監視を行う。そのためには、パッシブインジケータや北川式検知管など、簡単で低コストで行うことができるものが用いられる。パッシブインジケータは検知剤の色変化から有機酸やアンモニアの気中レベルを把握することができる。4日間、96時間暴露後の状態が、管理目標をクリアできたかどうかの指標となる。北川式検知管は、電動ポンプで検知管内に所定量の空気を通すことで対象物質を反応させるものであるが、温度による補正が必要だ。

博物館の展示・収蔵環境の状態は、温度により大きく変化する。とくに高温であるほど発生源からの放散量も増加し、有機酸やアンモニアなどの濃度も高くなる。そこで、調査を行う際には、春夏秋冬の四季を通じてモニタリングしてほしい。夏場の空気環境が最も悪化することを前提に、季節ごとの変化を把握することが望ましい。博物館は高气密高断熱設計であることで資料を守るが、逆に、内部で問題が発生すると、排出することが難しい。資料がある場所は、展示室、収蔵庫（収納箱内の状態にも注意のこと）、展示ケースが考えられるが、その中でも展示ケースは、発生源となる合板の面積がケース容積に対して大きいので、問題が大きくなる。

問題の発生が明らかになった場合、どのような対策をとればよいのだろうか。他の物質では、発生量の減少を待つ「枯らし」の方法が取られることもある。しかし有機酸やアンモニアの場合は、合板やクロスなどから長期間発生し続けるので、「枯らし」の効果は期待できない。そこで、対策としては空気の入替えや吸着が中心となる。

展示ケースの場合、パッシブインジケータなどをケースの中と外に置いて、どこに原因があるかを探ることが必要だ。例えばケース内だけが高ければケース内に原因があると特定できる。展示ケース内の空気に問題があつて空気の入替えを行う場合は、取り入れる空気が有害物質を含まないきれいなものであることが大前提だ。そのうえで、温度や湿度の乱れや粉塵の流入を防ぐ必要がある。展示ケース内の有害物質を取り除く方法としては、吸着剤やケミカルフィルターを使う。吸着シートや吸着パッドは複数の会社からいろいろな製品が出ている。空気清浄機を使い、有害物質を積極的に捕捉する方法もあるが、ケース内での通電や温度上昇などのリス

クもあることに注意が必要だ。

長年使ってきた展示ケースでは、ケース内部のいたるところに有害物質が吸着している可能性がある。有機酸は水に溶けるので、固く絞った雑巾でケース内を水拭きして十分乾燥させることを、ぜひやってほしい。また、長年使った調湿剤は交換する必要がある。調湿剤は多孔質な物質で、そこに化学物質を吸着して、調湿剤自体が発生源となってしまうことがあるからだ。

根本対策として、有害物質を発生しない材料を使う方法がある。例えば合板ではなく石膏ボードや無機質ボードを使用すれば、有機酸の発生の心配はなくなる。一方で、展示台の耐荷重の問題や、展示壁に使用した場合にビスを打てなくなるなどの影響もある。個別の場合毎に判断してほしい。クロスについては、私達の実験では製品によってアンモニア発生量に差があつた。いくつか比較して発生量の少ないものを選ぶとよい。

ところで、資料そのものが発生源となってしまう場合がある。例えばネガフィルムは加水分解によって酢酸が発生してしまう。セルロイドから硝酸ガスが発生して金属の引き出しを腐食させたこともあつた。このように大量生産された近現代の資料は注意が必要で、もし発生してしまったら、隔離するしかないだろう。



吉田先生

以上をまとめると、どの博物館でも有害物質は発生するものという前提で、季節変化を含めた状態を把握し、必要な対処方法をシュミレーションするなど準備して、実際に行った対策の効果を実証してほしい。博物館は資料を何十年にもわたって保管するので、最悪の状況も考えておくべきだ。

さらに詳しい情報は、私も監修した「美術館・博物館のための空気清浄化の手引き」がネット上でも入手可能であるので、参照してほしい。また、展示・収蔵環境に関する相談があれば、ネットで文化財活用センターのお問い合わせフォームを利用するなどして、気軽に連絡してほしい。

《質疑》

(質問者) 変色試験紙によるpH測定ではいけないのか。

(吉田) 変色試験紙は、新築のコンクリート建築でのアンモニアの減少を把握するために使われる。pHが酸性かアルカリ性かの極性がわかるだけで、原因物質の特定や量と結びつけることはできない。既存施設なら、パッシブインジケーターに切り替えた方がよい。

(質問者) 照度の場合は積算照度の考え方があり、最大照度を時間やルクスで割って計算するが、有機酸ではどうか。

(吉田) 有害物質の場合、暴露をどこまで認めるか、という数値の設定は行っていない。資料を扱う際に、光は避けられないものであるが、有害物質は何らかの方法で避けることができるので、抑える方法を考えることが優先だ。

《事例報告》

滋賀県立安土城考古博物館の場合 高木叙子氏

収蔵品に影響を及ぼす有害物質として、アルカリ(コンクリート躯体部などから放出)、有機酸(壁面や演示台の合板などから放出)、アンモニア(壁面や演示台のクロスから放出)があげられる。いずれも、長期間放出し、枯れることがなく、高温で放出が急増する。当館の実験では、30年前に作成した演示台で、30℃では放出がみられたが、22℃では出なかったの、温度の影響が大きいことが確かめられた。近年は夏の高温を心配している。

改善策として、放出しない素材に交換できれば根本解決となるが、現実的には難しい。当面は、有害物質をケースの外へ放出するか、吸着して除去する、などの対応をとることになる。対象空間によって対策が異なるので、収蔵庫、企画展示室、常設展示室に分けて述べたい。

収蔵庫においては、空調による外部放出、空調機フィルターによる化学吸着や大型空気清浄機の使用により除去することができる。ただし排気は室内を陰圧にするので、注意を要する(収蔵庫は陽圧が望ましい)。棚材や壁材として無機質板を使用すれば根本改善が可能だが、時間や費用がかかる。また、温度 $22\pm 1^{\circ}\text{C}$ であれば放出は抑えられることから、室内の温度管理も重要である。収蔵時に使用する木箱にも気をつけたい。江戸時代の桐箱から有機酸の放出が認められた例もある。紙箱への転換や吸着材の使用などの対策が考えられる。

企画展示室では、会期外の閉室時に展示ケースを開放して、通風・乾燥・吸着により有害物質を排除することができる。展示ケースを開放するときには、展示室内からも排出が必要だ。演示台も外に出して乾燥させ、扇風機などで外向きに通風したり、壁や板に直当てるとよい。ただし、展示室やケースの解放時には虫菌が入らないよう注意も必要だ。当館では、年4回の特別展や企画展を開催していない閉室時には、演示台は極力展示ケースから出して、ケース内に有害物質がたまらないようにしている。

一方、常設展示室では、展示ケースは常に閉鎖されているので、展示したままケース内で有害物質を吸着するしかない(企画展示中のケース内も同様)。展示しながらケース内で吸着する場合、吸着面は広いほどよい。吸着パッド、吸着シート(薄手、厚手)などは、使いやすさや持続力によって使い分けたい。複数の会社からいろいろな製品がある。吸着フィルター内蔵の空気清浄機を用いる場合もあるが、展示ケース内での事故や温度上昇の心配もあり、使用は開館時間中に限るなどの留意も必要だ。

展示期間中にケース内の濃度が高くなり、他に方法がない時の最終手段として、閉館後に1~2時間ほど展示ケースを開放する方法もある。当館の例では、週1回2時間の開放で効果があった。この開放の際、ケース内と展示室内の湿度を、相対湿度(%)だけでなく絶対湿度(g/m^3)にも留意することが必要だ。当館でも、湿度の変動には苦労した。このようにケース内資料の安全確保と湿度の保持が重要だ。

有害物質については、どの館でも起こりうることだ。まずは自館の状況を正確に、どこで、どの時期に、どの程度発生しているかを把握することが必要

だ。デリケートな問題だが、問題を抱える館どうし、できるだけ情報を共有し事例を重ねて解決を目指したい。



高木氏

《事例報告》

長浜市長浜城歴史博物館の場合 福井智英氏

当館は昭和58年に開館した。展示・収蔵環境の改善に取り組むようになったきっかけは、平成27年度に空調改修や展示室リニューアル、エアタイトケースの新設を行ったことだ。工事前から、県文化財保護課、文化庁、当時は東京文化財研究所におられた吉田さんなどに色々と相談した。

平成28年2月に工事が完了したが、ケース内のホルムアルデヒドの数値が高かったので、ケース内の換気を行った。また、夏の特別展で国指定文化財を展示予定であったため、空気環境の調査を行ったところ、エアタイトケースから高いレベルの有機酸が検出された。そこで換気や吸着剤で低減をはかりつつ、この夏はエアタイトケースを使用せずに特別展を開催した。

平成29年度にも、やはり有機酸の検出があった。吉田さんからの助言を得て、有機酸を除去する業務用の空気清浄機を導入した。またモニタリング状況を客観的に示すことが大切だとのことで、温湿度のデータとも合わせて報告できるように、データロガーを導入し、24時間空調、より強い吸着剤を使用するなどの対策を行った。この年もエアタイトケースの使用は見合わせた。

平成31年1月になって、パッシブインジケーター試験により比較的良好な結果が得られたため、文化庁調査官や吉田さんに来館いただき、指導と助言に

基づき、可動式ボードの配置変更やケース内の吸着シートの交換などの対策を行った。その後、有機酸の反応が通常のレベルに改善されたので、エアタイトケースを限定条件つきで使用することにした。新設してから2年ほど、使用できないまま環境改善に努めていた、ということになる。

平成31年度には、モニタリングを続けながらエアタイトケースを展覧会で使用し、展示環境改善に必要な消耗品費や24時間空調を見越した電気代を予算計上することや、国指定文化財の展示は冬季に行うなど開催時期を考慮する、などの対応を行った。

令和3年8月から、当館は耐震補強等改修工事のため休館している。今回は展示室内にコンクリート壁面を設置するので、アンモニア対策も必要となる。換気扇を設置することや、工事業者による環境調査の実施、また、展示環境改善のための消耗品を現物で納入することを仕様書に盛り込んだ。

これまでを振り返ると、文化庁や文化財活用センターにこまめに連絡をとり、相談することで解決策が見えることが多かった。県内にも、当館のように開館から30年以上が経過した館が多いと思う。開館からかなり経過している館での展覧会を、現代の課題にどのようにあわせていくかにとっても苦慮している当館の対策を紹介させていただいた。



福井氏

《情報交換》

(吉田) 事例報告2題を聞いて、一つの方法ではなく、いくつかの方法を組み合わせ、それぞれのリスクを最小限にしながら効果を引き出している。現場の話は、私にとっても勉強になった。この事例報告は全国に広げてほしいものだ。

(質問者) 展示ケース内の見た目を重視すると、吸

着シートは当館では使用が難しい。ケース内の換気はどのようにしたらよいか。

(吉田) 吸着シートで合板を覆うと、吸着以上に遮蔽効果が大きい。それが難しければ折りたたんで端に置くなどの方法もある。ケース内にある程度の気流をつくると吸着させやすい。有機酸もアンモニアもゼロにするのではなく、管理目標値よりもどれだけ下げることができるかを、地道に模索してほしい。

(質問者) 空気環境問題に取り組みたいが、館内で必ずしも賛同が得られず、例えばパッシブインジケーターも十分な量を購入できない。

(吉田) 国指定品の公開や、公開承認施設の審査に関して、文化庁からストップがかかるようなことでもあれば、皆さん気づいていただけるかも。

(質問者) 「有機酸は〇〇以下」などと、設計仕様の段階で組むことはできないか。

(吉田) 仕様に盛り込む場合は実際には多い。しかしその状態がその後も続くわけではないのが悩みどころだ。たとえば冬に納品されても夏には状態は変わる。やはり博物館は人為的な管理が必要で、何もしなくてもいい状態が永続する、というものではない。

(司会) 全体を通じたコメントをいただきたい。

(吉田) 今回の事例報告のように、現場での良い実例を集めてほしい。また、文化財活用センターにも、なんでも聞いてきてほしい。

《情報交換会を終えて》

近年明らかになってきた有機酸の問題について、その背景と対策の理論を吉田先生から講演いただき、対策の実践を県内の2館から紹介いただきました。有機酸の影響を受ける資料を普段扱わない者にとっては、歴史系博物館でのご苦勞を具体的に聞き、資料の保存と活用の意義を改めて再認識して背筋が伸びる思いでした。また、会場では吸着シートのサンプルを配布され、セミナールームでの講演のあと企画展示室に移動して、ケース内で実際に吸着シートや空気清浄機を使用しておられる様子を見学させていただくなど、実践的な情報交換会となりました。

(研修委員・みなくち子どもの森自然館 小西省吾)

【編集後記】

ひきつづき、新型コロナウイルス感染症の影響により、各加盟館ともに展覧会やイベントをはじめ、感染防止対策を中心に、館の運営に苦心をされたことと思います。滋賀県博物館協議会においても、令和3年度はコロナ禍のなかであって、様々に工夫しながら事業に取り組みました。

研修委員会では、昨年度にひきつづき有機酸の問題を取り上げ、今年度は一部にリモートを取り入れながら、各館の事例をふまえて実践的な情報交換会を行いました。

記念事業委員会においては、40周年の記念事業として、ポスター制作に取り組むとともに、次年度に向けた取り組みも、すでに準備を始めています。

広報委員会では、毎日新聞誌面上にて連載中の「名品手鑑Ⅱ」の原稿取りまとめを行いました。みなさまのご協力もあって、令和3年度は20館が掲載されました。また、サンライズ出版が発行する滋賀の文化情報誌「Duet」へは情報提供を行い、長浜城歴史博物館の友の会のあゆみや滋賀県立近代美術館のリニューアルなど、加盟館の様々な情報を掲載していただいています。今年度は、県博協WEBページの基本情報の確認作業を行うなど、各館の情報を発信できる体制を作ってまいりますので、情報発信に積極的にご活用ください。

委員一同、県博協が加盟館のみなさまにとっての活発な交流・活動の場となるよう取り組んで参りますので、さらなるご支援ご協力をいただくとともに、ご意見などをお寄せくださいますようお願いいたします。

(広報委員・大津市歴史博物館 木津勝)

しが県博協だより 第34号

令和4年(2022年) 6月29日発行

編集・発行 滋賀県博物館協議会

〒525-0034 草津市草津3丁目10-4

草津市立草津宿街道交流館内

TEL 077-567-0030

URL <https://sam.shiga.jp/>

令和4年度滋賀県博物館協議会 加盟館名簿

2022年6月29日現在

会 員 館 名	郵便番号	住所	TEL	FAX
近江神宮時計館宝物館	520-0015	大津市神宮町 1-1	077-522-3725	077-522-3860
大津市歴史博物館	520-0037	大津市御陵町 2-2	077-521-2100	077-521-2666
大津絵美術館	520-0036	大津市園城寺町 33 番地 絵本山円満院門跡	077-522-3690	077-522-3150
長等創作展示館・三橋節子美術館	520-0035	大津市小関町 1-1	077-523-5101	077-523-5101
大津祭曳山展示館	520-0043	大津市中央 1-2-27	077-521-1013	077-521-1013
滋賀県立琵琶湖文化館	520-0806	大津市打出浜地先	077-522-8179	077-522-9634
渡来人歴史館	520-0051	大津市梅林 2-4-6	077-525-3030	077-525-3450
公益財団法人 膳所焼美術館	520-0837	大津市中庄 1-22-28	077-523-1118	077-523-1118
建部大社宝物殿	520-2132	大津市神領 1-16-1	077-545-0038	077-545-2438
滋賀県立美術館	520-2122	大津市瀬田南大萱町 1740-1	077-543-2111	077-543-2170
田上郷土史料館	520-2112	大津市牧 1-8-32	077-549-0369	077-549-0369
田上鉢物博物館	520-2275	大津市枝町 3-8-4	077-546-1921	077-546-1921
木下美術館	520-0016	大津市比叡平 2-28-21	077-575-1148	077-575-1148
比叡山国宝殿	520-0116	大津市坂本本町 4220	077-578-0001	077-578-0678
伊香立「香の里史料館」	520-0352	大津市伊香立下在地町 1223-1	077-598-2005	077-598-2005
大津市科学館	520-0814	大津市本丸町 6-50	077-522-1907	077-522-2297
滋賀県立琵琶湖博物館	525-0001	草津市下物町 1091	077-568-4811	077-568-4850
草津市立草津宿街道交流館	525-0034	草津市草津 3-10-4	077-567-0030	077-567-0031
守山市ほたるの森資料館	524-0051	守山市三宅町 10 市民運動公園内	077-583-9680	077-583-9680
守山市立埋蔵文化財センター	524-0212	守山市服部町 2250	077-585-4397	077-585-4397
佐川美術館	524-0102	守山市水保町北川 2891-44	077-585-7800	077-585-7810
栗東歴史民俗博物館	520-3016	栗東市小野 223-8	077-554-2733	077-554-2755
国指定重要文化財「大角家」住宅旧和中散本舗	520-3017	栗東市六地藏 402	077-552-0971	077-552-0971
湖南省東海道石部宿歴史民俗資料館	520-3116	湖南省雨山 2-1-1	0748-77-5400	0748-77-5401
菩提寺歴史文化資料室 (菩提寺まちづくりセンター内)	520-3248	湖南省菩提寺西 4-2-12	0748-74-3471	0748-74-4005
野洲市歴史民俗博物館(銅鐸博物館)	520-2315	野洲市辻町 57-1	077-587-4410	077-587-4413
甲賀市水口歴史民俗資料館	528-0005	甲賀市水口町水口 5638	0748-62-7141	0748-63-4737
みなくち子どもの森自然館	528-0051	甲賀市水口町北内貴 10	0748-63-6712	0748-63-0466
甲賀市土山歴史民俗資料館	528-0211	甲賀市土山町北土山 2230	0748-66-1056	0748-66-1067
甲賀忍術博物館	520-3405	甲賀市甲賀町隠岐 394	0748-88-5528	0748-88-2108
甲賀市くすり学習館	520-3431	甲賀市甲賀町大原中 898-1	0748-88-8110	0748-70-3694
甲賀流忍術屋敷	520-3311	甲賀市甲南町龍法師 2331	0748-86-2179	0748-86-7505
甲賀市甲南ふれあいの館	520-3321	甲賀市甲南町葛木 925	0748-86-7551	0748-86-7551
甲賀市信楽伝統産業会館	529-1851	甲賀市信楽町長野 1203	0748-82-2345	0748-82-2551

滋賀県立陶芸の森 陶芸館	529-1804	甲賀市信楽町勅旨 2188-7	0748-83-0909	0748-83-1193
MIHO MUSEUM	529-1814	甲賀市信楽町田代桃谷 300	0748-82-3411	0748-82-3414
滋賀サファリ博物館	529-1802	甲賀市信楽町黄瀬 2854-2	0748-83-0121	0748-83-0122
かわらミュージアム	523-0821	近江八幡市多賀町 738-2	0748-33-8567	0748-33-8722
近江八幡市立資料館 (郷土資料館・歴史民俗資料館・旧西川家住宅)	523-0871	近江八幡市新町 2 丁目 22	0748-32-7048	0748-32-7051
滋賀県立安土城考古博物館	521-1311	近江八幡市安土町下豊浦 6678	0748-46-2424	0748-46-6140
近江日野商人館	529-1603	蒲生郡日野町大窪 1011	0748-52-0007	0748-52-0172
近江日野商人ふるさと館「旧山中正吉邸」	529-1628	蒲生郡日野町西大路 1264	0748-52-0008	0748-52-3850
世界風博物館東近江大風会館	527-0025	東近江市八日市東本町 3 番 5 号	0748-23-0081	0748-23-1860
木地屋民芸品展示資料館	527-0201	東近江市蛭谷町 176	050-5802-3313	
日登美美術館	527-0231	東近江市山上町 2068-2	0748-27-1707	0748-27-1950
東近江市近江商人博物館	529-1421	東近江市五個荘竜田町 583	0748-48-7101	0748-48-7105
観峰館	529-1421	東近江市五個荘竜田町 136	0748-48-4141	0748-48-5475
滋賀県平和祈念館	527-0157	東近江市下中野町 431 番地	0749-46-0300	0749-46-0350
愛荘町立歴史文化博物館	529-1202	愛知郡愛荘町松尾寺 878 番地	0749-37-4500	0749-37-4520
愛荘町立愛知川びんてまりの館	529-1313	愛知郡愛荘町市 1673	0749-42-4114	0749-42-8484
豊会館	529-1174	犬上郡豊郷町下枝 56	0749-35-2356	
多賀町立博物館	522-0314	犬上郡多賀町四手 976-2	0749-48-2077	0749-48-8055
ダイニックアストロパーク天究館	522-0341	犬上郡多賀町多賀 283-1	0749-48-1820	0749-48-2129
彦根城博物館	522-0061	彦根市金亀町 1-1	0749-22-6100	0749-22-6520
米原市醒井宿資料館	521-0035	米原市醒井 592	0749-54-2163	
醒井木彫美術館	521-0035	米原市醒井 95	0749-54-0842	0749-54-0842
米原市柏原宿歴史館	521-0202	米原市柏原 2101	0749-57-8020	0749-57-8020
伊吹山文化資料館	521-0314	米原市春照 77	0749-58-0252	0749-58-0252
国友鉄砲ミュージアム	526-0001	長浜市国友町 534	0749-62-1250	0749-62-1250
長浜市長浜城歴史博物館	526-0065	長浜市公園町 10-10	0749-63-4611	0749-63-4613
成田美術館	526-0056	長浜市朝日町 34-24	0749-65-0234	0749-65-0234
長浜市曳山博物館	526-0059	長浜市元浜町 14-8	0749-65-3300	0749-65-3440
冷水寺胎内仏資料館	529-0251	長浜市高月町宇根 316	0749-85-2305	090-8653-6999
湖北野鳥センター	529-0365	長浜市湖北町今西	0749-79-1289	0749-79-8022
竹生島宝蔵寺宝物殿	526-0124	長浜市早崎町竹生島 1664-1	0749-63-4410	
布施美術館	529-0205	長浜市高月町唐川 339	0749-85-2363	0749-85-2363
ヤンマーミュージアム	526-0055	長浜市三和町 6-50	0749-62-8887	0749-62-8780
白谷荘歴史民俗博物館	520-1837	高島市マキノ町白谷 343	0740-27-0164	0740-27-1000
高島歴史民俗資料館	520-1111	高島市鴨 2239	0740-36-1553	0740-36-1554